

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予報第7号を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予報第7号

平成21年 8月28日
徳 島 県

.普通作物
普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 0.3%、株あたり寄生虫数が0.00頭)。
- (2) 予察灯への初誘殺は8月19日に確認された。誘殺虫数は少なめで推移している。
- (3) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が22.7%、被害葉率が0.28%であり、平年(29.9%、0.89%)並の発生である。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

.果樹
カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場における調査(8月20日調査、無防除区)では、発病果率が 100%、果実発病度が46.0であり、平年(100%、44.2)並の発生である。
- (2) 8月前半の巡回調査(スダチ)では発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 9.1%、果実発病度が 0.3)。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)枯れ枝を極力除去する。また、せん定枝は園外に持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

ミカンハダニ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)県予察圃場における調査(8月20日調査,無防除区)では、寄生葉率が1.0%、1葉あたり寄生虫数が0.01頭であり、平年(9.9%,0.01頭)と比べてやや発生が少ない。
- (2)8月前半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、寄生葉率が3.5%であり、ほぼ平年(55.9%、8.0%)並の発生である。
- (3)8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2)ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月前半の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、葉の発病度が0.5であり、ほぼ平年(30.3%、1.6)並の発生である。
- (2)8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月前半の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、寄生葉率が4.9%であり、平年(27.6%、6.7%)より発生面積がやや多かった。
- (2)8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)発生の多い園では収穫後に防除を行なう。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

カキ

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)8月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、発病葉率が4.8%であり、ほぼ平年(56.2%、9.1%)並の発生である。
- (2)8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

炭そ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、発病果率が0.2%であり、ほぼ平年(7.9%, 0.04%)並の発生である。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシともに、予察灯への誘殺虫数は平年並~やや少なめで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	浦					板				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平年	2009年	2008年	2007年	2006年	平年
8.1	45	240	28	177	81	1	12	3	4	10
8.2	70	348	10	340	111	1	14	4	1	12
8.3	71	273	21	1,358	157	1	10	3	6	9
8.4	79	56	8	478	87	2	8	18	70	13
8.5		38	8	358	63	2	8	3	8	7
8.6		220	6	217	88		25	2	13	9

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	浦					板				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平年	2009年	2008年	2007年	2006年	平年
8.1	66	67	64	113	78	11	10	63	7	33
8.2	178	107	58	235	80	16	4	29	15	27
8.3	85	219	61	612	134	10	15	35	14	20
8.4	94	309	41	444	117	7	19	11	38	18
8.5		85	56	571	104	5	41	2	35	20
8.6			29	536	159		50	1	21	17

- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大いなので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少~中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、発病葉率が12.7%であり、平年(54.6%, 7.7%)と比べてやや発生が多い。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並～やや少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が11.1%,寄生葉率が0.0%,被害果率が0.3%であり,平年(37.0%, 3.1%, 3.7%)と比べてやや発生が少ない。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では,気温は平年並又は高い,降水量は少ない,日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が9.6%,寄生新梢率が0.5%)。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では,気温は平年並又は高い,降水量は少ない,日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため,防除の際には,葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並),発生程度「少」は

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が22.2%,寄生葉率が0.2%であり,平年(31.4%, 5.4%)と比べて寄生葉率が低い。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では,気温は平年並又は高い,降水量は少ない,日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているため,防除の際には,葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が51.5%,50株当たり虫数が5.0頭)。
- (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では,気温は平年並又は高い,降水量は少ない,日照時間は多い確率がともに40%と見込まれており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも,被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに,確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり,食害して葉の内部に潜むようになると,薬剤による防除効果が著しく低下するので,早期発見に努め,若齢幼虫期に防除を行なう。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては,フェロモン剤による防除が効果的であるので,適切に使用する。
- (4) ヨトウコン-Sによる交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので,早めに交換する。

ネギアザミウマ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、葉の被害度が0.1であり、平年(18.3%、0.2)並の発生である。
 - (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が15.7であり、ほぼ平年(85.9%、21.3)並の発生である。
 - (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年よりやや少なめで推移している。
 - (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

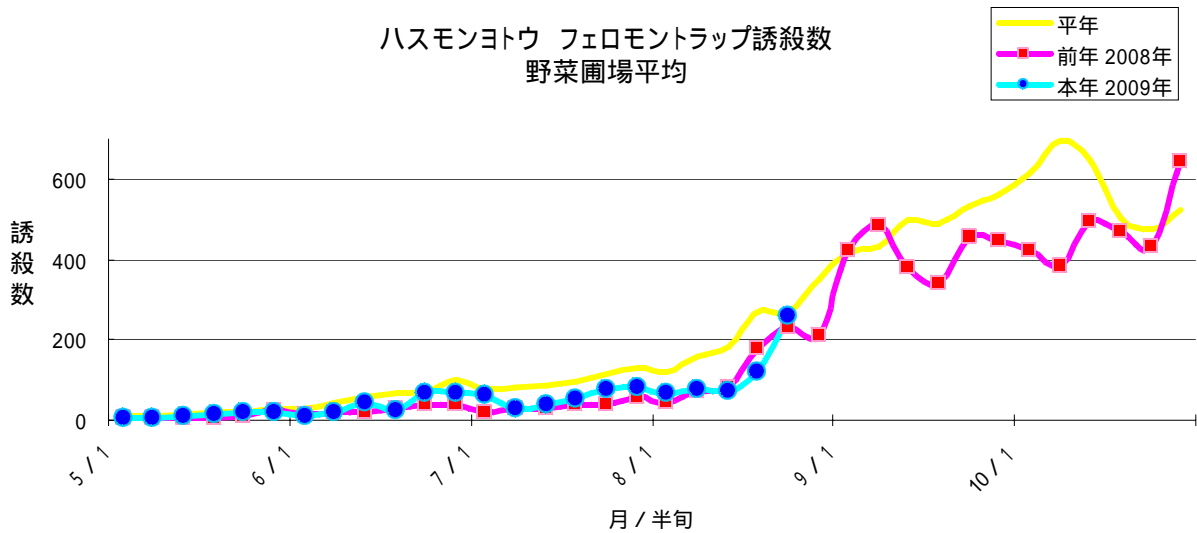
- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年並~やや多で推移している。
 - (2) 8月28日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並又は高い、降水量は少ない、日照時間は多い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

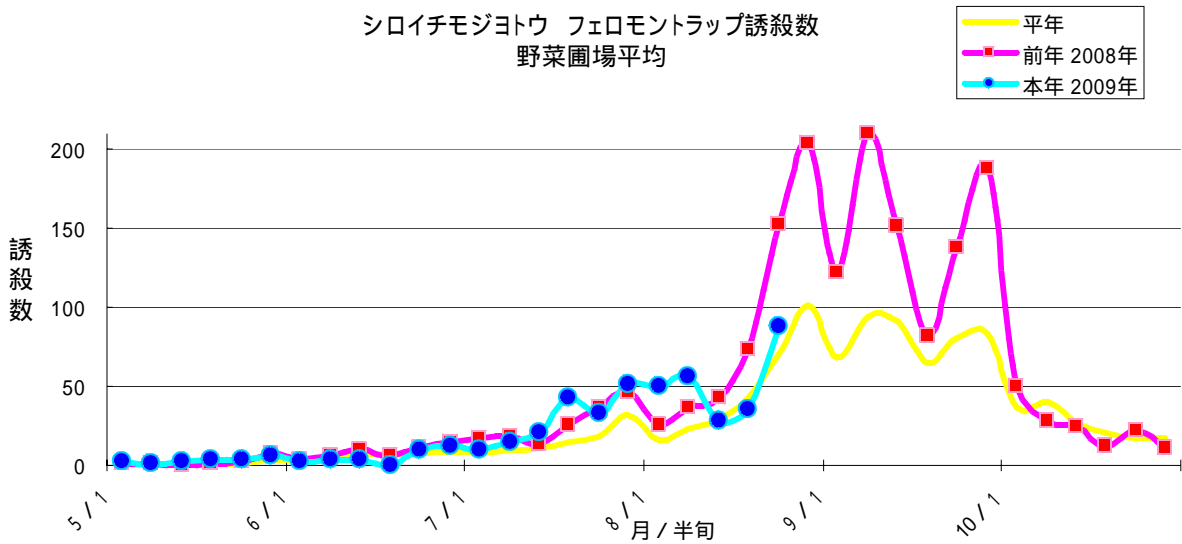
(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平年	2009年	2008年	2007年	2006年	平年
8.1	67	43	79	132	121	50	26	9	4	16
8.2	77	72	62	185	157	56	37	6	4	23
8.3	70	83	74	140	181	28	42	5	8	29
8.4	119	176	162	266	267	35	73	9	20	42
8.5	260	230	183	249	267	88	153	24	20	71
8.6		210	217	373	352		204	40	29	101

ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数
野菜圃場平均



シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数
野菜圃場平均



調査圃場：徳島市(川内,不動),石井町,阿波市(柿原,香美),吉野川市(鴨島),東みよし町(三加茂)

その他

- 1)防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
 テレホンサービス：0 8 8 3 (2 6) 1 1 9 9
 U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。

